

# CATCH the NEW!

アモーレ ヒロスケの  
新たなユニット活動再開!  
「次に来るのは、きっと僕らのバヤバヤさ。」



**謎**のブーガルバンド「東京リズムキングス」解散から約1年、あのアモーレヒロスケが突如として、アモーレヒロスケ&ラブ マシーン”で音楽活動を再開。折しも「Oh!ゆれOSAKA」でLIVEと聞いて早速インタヴューを決めたんだ。イラストレーター上野宏介としてもアーティストとしての才能を遺憾なく発揮する、彼の新たな音楽性とは如何なるものなのか。そうだが、今ここで明らかにされようとしている。

「リスキン」は短命だったけど何か問題でアモーレ ヒロスケ(以下A・H)「まあ、演奏能力とか技術面でブーガルしかできないかっただってごかなア、僕の次のステップになかなか移れなかったんだ。ポッサやムード音楽、ジャズファンクやR&Bにラテンと、とにかく何でもやりたい方だったから、自分流にネ。で、ようやく今回そういう演奏のできるメンバーが集まってくれた。ご機嫌な音楽の玉手箱ができたヨ。」

「ラブ マシーン」という名前、どことなくノスタルジックでそれでいて何となくキツチュな響きに聞こえるんだけど、その謂は? A・H「ラブ マシーン」って響きは僕の中では、映画のタイトルだったソウルミュージックばかりするんだけど、そもそも僕がDJをしている「ディーブ」でのイベント名だったんだ。その傍らで作曲活動に励んで

ただけど、その時の僕の相棒が打ち込みの機械一台つきりでき、そいつのことを何故かラブマシーンと呼んだりして、バンド名もこれだっと思ってた。」

「今回のアルバムにその流れの曲ってあるの?」 A・H「中野にあるGS系、おサイケ系の古着屋で「ニューネギシ」って店があるんだけど、イベントのパフォーマンスを頼まれてネ、いつもなら得意のライブペインティングを披露するだけで終わるんだけど、この時はかりは、「あつそうだ歌、唄いながらペインティングしよう」って思って、ほら水森亜土の絵かき歌って昔あったじゃない。あのイメージで作ろうと思ったら、なんかラブのリズムになっちゃって、A

「何かこう、日本語のインパクトが、エセヒップホップのそれとは全然違った別の所にある」



「ラブ マシーン」って響きは僕の中では、映画のタイトルだったソウルミュージックばかりするんだけど、そもそも僕がDJをしている「ディーブ」でのイベント名だったんだ。その傍らで作曲活動に励んで

「いいよネー」 A・H「日本語はとっても大切にしている。歌詞は日本語、かけ声は英語って決めているんだ。歌詞の面白さとか、ナンセンスさは、日本人に伝えるんだからやっぱり日本語でないとネ。もちろん歌唱力の問題もあるけど。」



「僕らのバヤバヤは映画音楽的かもしれない。今回のアルバムのテイストってさ、アルマンド・トラバヨリーの「セツソ・マツト」に影響されているところあるんだよね。ただ小洒落たクールなバヤバヤじゃなくって、ユーモアが感じられる温かいバヤバヤを、なんかもって映画のシーンを思い浮かべたくないかな?」

「A・H「僕は何となくもコーラスの「ラブ・ビーチーズ」に注目して欲しいネ。僕のお気に入りの服のブランドに「マッセメンシユ」って所があるんだけど、そのスベインシユでウエスタンなテイストの服がこれまたスツゲエ可愛いんだ。(ちなみに京都では「デッペン ノイズ」が取り扱っている。)で実はコーラスのキムがそこに居る子で、彼女がスタイリストしてくれてるって訳。全体的な僕のイメージでは、60年代後半から、70年代前半のB級風俗コメディ映画のレコジャケって感じですが。あつそうじゃって決めて黒ノリじゃない僕のアディダスの着こなしも、見逃せないヨ。」

「A・H「うんズモールバカス入れて理想は12人でやりたい。でもまあモックンののみなら臨機応変にバヤバヤやってやったりしてネ。」



「一発大逆転/アモーレ ヒロスケ&ラブ マシーン」  
/2000円/CHANCE RECORDS

# CATCH the NEW!

## KYOTO JAZZ MASSIVE

これは、形にしたかった才能を集めたレーベル的コンピレーションである。

京都では周知のプロデューサー沖野修也率いるキョート・ジャズ・マッシブ。彼がプロデュースするモンド・グロツンと共に東京へと活動拠点を移して約一年半。渋谷には自ら経営するクラブ「ルーム」を持ち、木更町のクラブ「コラーージュ」土曜日のDJブックキング、傍ら(?)DJプレイやリミックス、コンピレーション選曲などもこなす彼が初のアルバム「KyotoJAZZmassive」をリリース。これは彼が、現場に出ない監督のような役割でプロデュースしたコンピレーション。彼らしいセンスと彼ならではの人間性によるキャスティングで、ニュージャズなどというジャンルを超えんばかりの内容に仕上がっている。あくまでも主役はアーティスト、というこの作品。京都の人には、モンドのメンバー然り、写真は伊島薫だし山口武司が参加、林海像の映画のテーマ曲をカバーと意外にも京都は要素揃いなのが面白い。「京都を疎かにしてはわけがない」これからはもっとよくくちよく帰るつもり」と語る沖野修也にインタビュー。尚、隣のモンドのの記事と併せて読まれることをおすすめしたい。

「今回はわざわざ本誌の取材のために帰ってきて頂いたそうで(笑)」  
「もう他の用もあつたけど(笑)」  
「まずアルバムにマスターズ・アット・ワークによるR&Bがある経緯は?」  
「モンド・グロツンのイエロー(東京)でのライブを見たらいいよ、ペガが。で、R&Bみたい」と。だから(MAWにR&B)もやってみよう(曲は)モンドの分と



「うん、これはオムニバス。モンドの1枚目ってモンドというタイトルだけ色んなアーティストが入ってたでしょ。実際あれがキョート・ジャズというタイトルでも良かった。キョートというタイトルのコンピレーションにモンドが4曲参加してるっていう形でも良かったけど、あの方が解りやすいと思った。これも違うタイトルでも良かったけど、解りやすくするために付けた。最初はキョートはレーベルにしようかなって思ってた。これはレーベル的なコンピレーションであってレーベルじゃないけど。例えばアーティスト・プロダクションのレーベルを考えてた。各アーティストが他のレーベルで仕事しても全然構わないというが、でもクレジットのどこにはジャズ・マッシブって書いてねって(笑)。こんなに自由にやらせてくれるプロデューサーってないと思うよ」

「DJクラッシュもマンデー・ミチルも吉弘千鶴子も知り合いやし、ま、MAWは向こうが声掛けてくれたけど。それ以外の人も皆知り合い。僕が今後仕事をしていく上ではもっと広げてもいいかなっていう気はする。例えば吉弘さんはフュージョンの人だし、僕がいなかったら、山口君とももしかしたら一生一緒に仕事しなかったかもしれないからね」  
「吉弘さんはクラブな音にも興味持ってる人でしょ?」  
「モンドのライブは見ててくれたみたい。最初はそこのキーボードもモンドの吉沢君にやってもらおうかと思っただけあんまりメンバーが重なるのは嫌やしね。もう十分重なるし。ベースも大沢君で山口君は言ったけど、僕がクールスプーンの笹沼君知ってたから、じゃあ、って」  
「ずっと以前からジャズ・マッシブを取材している者としては、山口君の作品がCDになったのは嬉しいなあ(笑)」

「うん、した。例えばモンドのジャズじゃない。メンバーは皆ジャズが好きやし、方法論とか精神性はジャズと呼んでも差し支えないけど、音楽スタイル自体はそうじゃないわけ。でもこのアルバムに関してはジャズの世界でも通用するジャズっていうのもやっただけ。モンドって、何でもあり」やっただけで便宜上の枠組があつて、その枠は他のアーティストより広いけど、その外にこぼれるいいものはいっぱいある。例えば堀江君がやってくる曲(7)なんかはモンドじゃないわけですよ。そういうのをちゃんと形にしたかった」

「でもそのサンプラーとここに入ってる曲ではアレンジも全然違う。あの時は自宅録音やっただけ、そんなもんがリリースされるわけないって(笑)。でも僕は個人的に気に入って、何とか世に出したいなと思ってた。でもそれぞれの曲にアーティストの個性が出てると思うよ」  
「うん、でもアルバム全体がタイトに仕上がってるのは沖野君のアルバムってことで皆が調節したんでしょうかね?」  
「やろ、ね。それにお互いにどうなのが嫌か、またその逆もわかってるから」

取材・文/早川加奈子  
協力/フォーライフ



## YUME SUZUKI

Kyoto JAZZ massive  
3,000円(税込) / フォーライフ

純粋に歌うことを楽しんだシンガー鈴木結女に注目

シンガーとしての局面をフィーチャーした新作「カンヴァセーション」が好評な鈴木結女。実はレコーディングまでに思い掛けないハプニングの数々にみまわれたという。実母の急逝、喉の疾患による入院、スランプ。人生最悪ともいえるその期間に、否が応にでも自分を見つめ直した彼女が至った境地とは。そしてその時の痛みは、優しさと安らぎの感じられるボーカル作品に生まれ変わった。一年はスランプだったとか。  
「精神的スランプというよりも外的要因が多くて、それにただ驚くという感じで

ある意味で1年間の集大成的アルバム

京都が生んだインターナショナル・センスイシヨナル・バンド、モンド・グロ

ッが今月17日にミニアルバム「インヴィジブルマン」をリリース。いつものように共同プロデューサーはキ

ョート・ジャズ・マッシュ浦野修也。ROOM-Xにマスターズ・アット・ワーク参加。ミニといえど話題とクオリティは通常のアルバム並みの出来映え。しかしこれはヘーシストでありターの大沢伸一の才覚のほんの一端。今後ますます目が離せなくなっていくところ。そんなモンドの核なるメンバー、大沢、ラッパーのB・B・AND・J、サックスの中村雅人の3人に加え、キョート・ジャズ・マッシュのアルバムで大沢のユニット、バイア・サンセットとそのソウルフルな歌声を披露していたマンデー・ミチルも取材に同

MONDO GROSSO



「INVISIBLE MAN」2,300円(税込) / フォーライフ

席。東京でのモンドの様子がおわかり頂けると幸いです。彼女はミニアルバム(5)にVO参加。尚、隣のジャズ・マッシュの記事を参照すると倍楽しんで頂けると思う。

「カラーージュ出来てから月一位で京都に帰ってる感じ?」

大沢「ローテーションがあるんですよ実は。で回ってくるって感じですよ」

「今回のミニアルバムはラップがよりクールになったと思うんですが、たくさんレコーディングをやってきて自分のスタイルが決まってきたという感じ?」

B・B・AND・J「あ全然。ラッパーとして自分に合ったものはやるけど色んなスタイルには取り組むから。でも絶対にしないことは決めて、それは叫ばないことだけ。大体いつもクール。もちろんパワー入れてやるラップもあるけど、叫んだりはいない。最近のハード・コアのラップ、ギャングスタ・ラップとか、ヴァイオレンスとかを格好良く見せるようなラップはしないけど、ハード・コア

本来の「自分を正直に出す」という意味でなら僕のラップはハード・コアかもしれないよ」

「ハウス界のR・M・I・X・E・Rであるマスターズ・アット・ワークがR・M・I・Xしてますよね、でも全然MAWRらしくないというか?」

大沢「そうやね。今こういう感じになって来てるみたいですよ、ハウス自体が。バス・ドラの1つ打ちってあるでしょ、ドン、ドン、ドンって。あれを止めかかってくる話だけだね。NYはスタイルに囚われないというかそんなことやってるみたいですよ。BPMは相変わらず早いけど」

「単なる偶然かもしれないけど、スピリチュアル・ヴァイブスもハウス畑の人にR・M・I・Xしてもらったのか? 意識がそういう方向に向いてるってことですか?」

大沢「どうなんですか偶然でしょう?」

「考えてることが同じってことは?」

大沢「絶対ないでしょう(笑)僕は僕で、俺の考えることなんか絶対ひとになんかわからへん、っていう自信もまだあるし、実際モンドでやりたいことの30%も出てないレベルやしね。もっともってっていうジャンルを常に感じてるんです。自分のやりたいことがあって、それにはまだ空間があるんですよ。それを埋めるための作業ってのを常にやって、追い越すことはできないんですけど。結局こういう音源を作るってことは、もっと上のところや違うところに行きたいってことを常に感じてるわけでしょう。その方向で常に無限大にあるわけだから考えてることが同じとは僕には思えないですけど」

「まさしく、いいアルバムですよ。大沢「ありがとうございます(笑)」中村「伸ちゃん、インタビュアーにいい、なんていわれたらあかん。このアルバムわかりませんで言わせな」

「(笑)大沢君の例えはクレモンティーヌへ提供した楽曲みたいなポップな線と、反するディープなところの中間をついているという点でいいと思うんですが」

大沢「「インヴィジブルマン」に関しては3曲それぞれ全然違うアレンジになってるんで

すけど、それに関して言えばギリギリ譲った部分なんです。これ以上ポップなことはモンドでは出来ないし。次フルアルバムをつくるとしてもこれを超えるいいメロディの曲が1曲出来れば後はもう何やってもいいという、共同プロデューサーの沖野修也の許可もあるんで(笑)。「インヴィジブルマン」はある意味でモンドの1年間やってきたこと

の集大成的な曲なんです。だからどれかっていうんじやなく3つ併せて一つの楽曲という扱いはいいんですよ」

「やろうと思えば大沢君なら商業的なポップスだって作れるわけじゃないですか。例えば阿川泰子のR・M・I・X的なこと」

大沢「うん、でもそんなことしたらメトロにきてくれたお客さんが怒るでしょ(笑)本当に僕がポップなのでやりたいと思うのがあるとすればモンドでなく例えばバイア・サンセットで適当に話を作ったやれと思えます。それにしても売れようが売れまいがどっちでもいい」

「ところでキョート・ジャズ・マッシュのアーティスト写真の大沢君とマンデーさんの2ショットがまるでヒデとロザンナのようにハマってましたね」

(一同爆笑)大沢「ちゃんと名前があるんです。カルロス&マリア(笑)」

マンデー「ボラが上がってきた時に笑ってしまった。二人ともどう見ても南の国の人だよって。カルロス&マリア!」

「顔も似てたし。マンデー「本当は兄弟なんです(笑)バラしてもいいよ(笑)」中村「親子の間違いやろ?」

「どっちが親?」中村「マンデーが親に決まってるやん」(一同爆笑)

中村「東京クラブ・シーンの母ですから、マンデーは」

取材、文/早川加奈子  
協力/フォーライフ、マックインターナショナル

した。自分の周りの嵐を果敢と見ていたという感じだったのでスランプというより激動の1年でしたね」

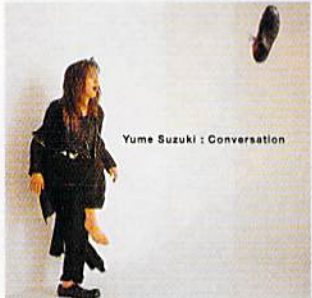
「新作はシンガーとしての鈴木結女が前面に出たアルバムになってますよね。作曲の仕方なんかいつもと違いました?」

「今までは映像を浮かべてイメージを湧かせて作曲してたんですけど、今回はもう自分がマイクとか持つちゃって歌った姿がありながら作ったという曲が多かったから、何か今までは違っちゃってるなと」

「シンガーとしての鈴木結女がフィーチャーされているということも含め、今までは自分のやりたいことに忠実にやってきたけど、これからはエンターテイナーとして必要とされている存在としての意識が芽生えてきた、ということなんじゃないかな?」

「正に!今までも自分の好きなことだけやってこたはなかったんですけど、どっちかと言うとサウンド指向というのが頭にあっただけです。曲としてというより音楽としてどう見えるかということばかり。でも今回歌をどう生かすにはどういう風にしたらいいんですかね、ってアレインジャーさんに聞いたり。今までは自分の声をボーカルではなくてボイス、楽器だと考えて歌ってたんですよ。その点今作は子供っぽいまでに純粋に楽しい、という気持ちで作ったアルバムなんです」

取材、文/早川加奈子 協力/メディアアレモラス、ムーヴィング



「Conversation」3,000円(税込) / メディアレモラス



ブリンク〜瞳が忘れない

**マ** デリリン・ストウという女優は、ドゥいうわけだか、常にスクリーン上で男に一目惚れされている。「張り込み」では家を見張られた上に刑事に惚れられ、「ラスト・オブ・モヒカン」ではモヒカン族の青年に見初められ、「不法侵入」に至っては、変態警官に追いかけて回された挙げ句、命まで狙われる始末。超個性的というわけでもなく、極端に色気があるわけでもないが、清楚にして知的、そしてすこぶる美人というの、大抵の男が一度は憧れるものらしい。さてそんな「理想の女」路線をひた走る彼女の最新作がこれ、「ブリンク〜瞳が忘れない」だ。ストウ演じるのは、盲目にして美貌のバイオリニスト。幼い頃、母親の虐待によって失明したという暗い過去を持つ女性だが、幸運にも角膜炎提供者が現れ、手術を受けることになる。その直後、完全に回復しきれない目で彼女が見たものは、ある殺人事件の犯人だった。しかし、目撃者とはいえ視力のおぼつかない彼女の証言を警察は信用しない。次々と犠牲者が続く中、犯人は遂に、彼女の命をも狙い始めるのだった。今回、彼女に惚れてしまふのはアイダマン・クイン演じる刑事。このふたりの恋愛をからめながらストリーは進むのだが、この刑事、頼り甲斐ありそうで実は全然役に立たない。気丈なヒロインは結局、自分ひとりで犯人に立ち向かうのだ。ここが従来のストウの役風とはちよつと異なるか

もしれないが、その意外性の勝利かスリリングな展開がいい。ラストまで一気に見せてくれる作品だ。

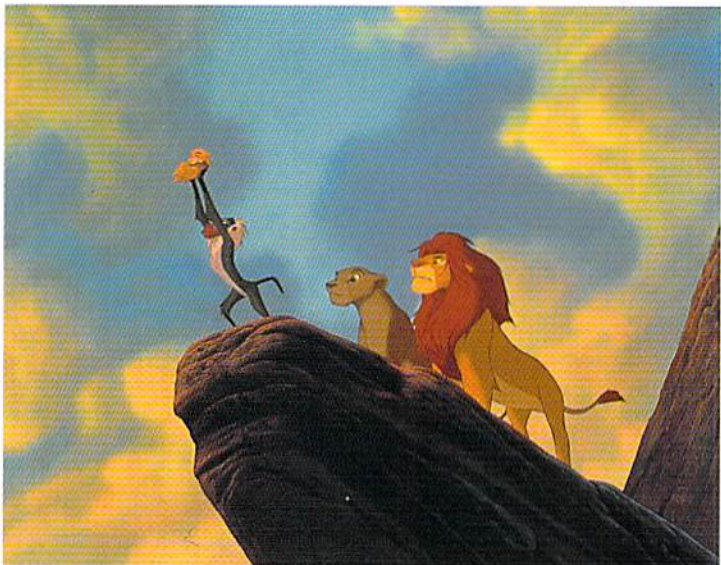
●公開中



CINEMA

**デ** イズニーのアニメ制作の歴史は既に70年。ここ数年をとおつても「リトル・マーメイド」ではロマンチックに、「美女と野獣」では美しく、そして「アラジン」ではファンタジックにと、愛と勇気の世界が得意なディズニーである。今だに子供向けのおとぎ話レベルで捕らえる人などいないだろう。完璧なストーリー展開に魅せられ、アーティスティックかつハイテクな映像技術に驚嘆することが、ファンにとっては欠かせぬ楽しみとなった。さあ、次は何を見せてくれるのかと、私たちはワクワクしながらスクリーンを見つめていればよいのだから賢沢ではないか。というわけで、この夏ついに姿を現すのが「ライオン・キング」。これはアフリカの壮大な自然を舞台にして、若きライオンの運命を描いたハイスケールな物語である。善良なライオンの王ムファサに息子が誕生した。その名もシンバ。彼が苦難と共に成長、やがて一人前の王となり、生まれ育った大地を父の時代よりもより素晴らしいものとするべく戦う。ディズニーにとつては久々の動物アニメ。しかも登場人物が動物のみというのが初めてなら、ストーリー自体がオリジナルというのも初の試みだ。いかにスタッフがこの作品に賭けているかがわかる。毎作話題とな

ライオン・キング



る音楽は、今回エルトン・ジョン他が担当。声の出演もジェレミー・アイアンズ、マシュー・フロデリック、ウーピー・ゴールドバークと役者揃いだ。またひとつ、ディズニーは見る者の胸に感動の種を蒔いてくれることだろう。●7月上旬公開予定

今月の

これを  
聴かないで  
どうする!!

By 永岡正直 (京都店店長)



SONIC YOUTH / EXPERIMENTAL JET SET, TRASH AND NO STAR ¥1,790  
彼らの孤高はどこまで登りつめるのだろうか? ヴェルベツにでもなるつもりなのか? 前作もよりヘヴィーに。そしてマニアック!



GILBERTO GIL / ACOUSTIC ¥1,790  
夏が近くなってくると恋しくなる音があります。ブラジル音楽です。バイアが生んだブラジル音楽の達人。耳に優しい夏音です。

**TOWER WORLD MUSIC SALE**  
ONE WORLD ONE BEAT  
6/16 (木) - 6/30 (木)

レゲエ、ワールドミュージックの音輸入CD全商品¥200オフ!  
夏の必需音楽を、あれこれまとめて買えるチャンス!  
●¥4000以上の商品は10%オフ、シングルは対象外。

SONY MUSIC presents  
**MUSIC MAGIC SALE**

7/1 (金) - 7/31 (日)

シールが貼ってあるソニーアーティストのCDに注目! 輸入盤はなんと¥200オフのお買い得プライス! 国内盤はオリジナルグッズが当たるラッキーチャンス!

'94 BEST SELLERS  
TOP 40 ¥1790 SALE

京都店 7/1 (金) - 7/17 (日)  
大阪店 7/7 (木) - 7/24 (日)

'94上半期のベストセラーTOP40がスペシャル・プライス!  
気になっていたあのヒットタイトルをチェック!

京都店

河原町ビブレ6F Tel. 075-212-7058  
OPEN: A.M. 11:00 - P.M. 8:00

大阪店

心齋橋アメリカ村 Tel. 06-211-2997  
OPEN: A.M. 11:00 - P.M. 9:00 (土日のみ10:00 OPEN)

**TOWER RECORDS**

L.A. CHICAGO BOSTON NEW YORK LONDON  
SAPPORO SENDAI NIIGATA CHIBA  
IKEBUKURO SHINJUKU SHIBUYA HACHIOJI  
YOKOHAMA KAWASAKI NAGOYA  
KYOTO OSAKA HIMEJI HIROSHIMA FUKUOKA

# 日本人の魂よ、今ここに!

締切迫る!! 演歌がましてよかですか? オーディション



**密かに** 演歌が今、旬である。とか「演歌な恋をしているの」など、もはや

や演歌は音楽のジャンルを越えた、熱い熱日本人の魂、怒涛の生きざまなのである。そんな魂と根性を持つ君たち、君たちの歌声を演歌にのせてぶちかましてみないか? べつにここで演歌じゃなくてもいい、演歌ポップス、演歌フォーク、演歌バンクなど、とりあえず「演歌魂」しているなら何でもOKだ。日本人が日本語で歌う燃える心を、今ここにぶちかませ。これは「ゴーマニズム宣言」

が大好評の小林よしのりと、伍代夏子・藤あや子を持つソニーレコード演歌製作部が贈る、潜在的演歌アーティストを発掘するための企画「演歌がましてよかですか? オーディション」略して「演

かま」なのである。締切は目の前だ。今こそ急げ!!  
【応募内容】 演歌魂が感じられる歌、演歌ポップス、演歌フォーク、演歌バンクetc、魂の叫びが感じられる演歌をかましてくれ。

【応募資格】

30歳までの男女。個人、グループ、国籍不問。但し現在特定のレコードメーカー、プロダクション、出版社と契約していないこと。また作家としての応募も可。

【応募方法】

以下の資料を郵送のこと  
1. 自演の歌を2曲程度収録したカセットテープ、またはビデオテープ。オリジナルの場合は作詞/作曲者名、歌詞を、カラオケ曲の場合はアーティスト名及び曲名明記。  
2. プロフィール(住所、氏名、年令、職業、電話番号、音楽歴、自己PR等)  
3. 写真・サービス判以上で現在の容姿がわかるもの(上半身のアップと全身計2枚)

【応募締切】  
94年6月30日 書類審査後、8月15日までに通過者に直接通知。 8月19日実

【応募上の注意】  
・ 施面接、10月決勝大会  
・ 未成年の応募に関しては親権者の承認が必要である。  
・ 応募資料は返却なし。尚オリジナル応募作の著作権は作者本人に帰属する。

【表彰発表】

グランプリ賞 賞金50万円+副賞(SO NY MDウオークマン)  
準グランプリ賞 賞金20万円+副賞(同上)

小林よしのり賞 賞金10万円+副賞(同上)  
受賞アーティストは、デビューに向けてソニーミュージック エンタテインメントがバックアップします。

【主催】  
(株) ソニーミュージックエンタテインメント  
ソニーレコード演歌製作部SD制作部

【応募先】  
〒102 東京都千代田区五番町6番地2  
ホームネットホライゾンビル1階  
(株) ソニーミュージックエンタテインメントSD制作部 “演かま” 事務局 SD係  
問い合わせ/03・3288・6979